

資料編

<資料目次>

[資料Ⅰ] 委員会の実施状況

■ 「新しい工業高校の整備候補地選定委員会」設置要綱	2
■ 京都市立工業高校の再編に関する基本方針	3
■ 「京都市立工業高校将来構想委員会」の「最終まとめ」について【概要版】	4
■ 新しい工業高校の整備候補地選定委員会 委員名簿	6
■ 新しい工業高校の整備候補地選定委員会 審議経過	7

[資料Ⅱ] 委員会配布資料

資料1 洛陽工業高校・伏見工業高校 設置学科及び生徒募集定員 (平成25年度入学者選抜)	10
資料2 洛陽工業高校・伏見工業高校 在籍生徒数(平成25年度)	11
資料3 洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況	12
資料4 京都市地区中学校3年生徒数及び洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【全日制】	14
資料5 京都市地区中学校3年生徒数及び洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【定時制】	15
資料6 「新しい工業高校」整備候補地の現状について	16
資料7 整備候補地の校舎配置および各階平面図	20
資料8 建物保有状況【市立工業高校・市立高校比較】	28
資料9 洛陽工業高校における建物保有状況【現況平面図】	29
資料10 伏見工業高校における建物保有状況【現況平面図】	30
資料11 洛陽工業高校・伏見工業高校 建物の耐震補強状況	31
資料12 国土地理院発行「都市圏活断層図」(抜粋)及び用語解説等 (国土地理院HPから)	33
資料13 阪神高速道路 稲荷山トンネル建設時資料「想定地質縦断図」 (財団法人阪神高速道路管理技術センター調査資料)	39
資料14 名神高速道路建設時資料「深草地質図」(深草団体研究会作成資料)	40
資料15 徳島県「中央構造線活断層帯に係る土地利用の適正化Q&A」 (徳島県 南海地震防災課作成資料)	41
資料16 「徳島県の活断層Q&A(抜粋)」(徳島県HPから)	47
資料17 「野島断層保存館」のページ(北淡震災記念公園HPから)	49
資料18 京都市防災マップ(地震編)(京都市行財政局防災危機管理室作成資料)	51
資料19 立命館中学・高校への質問事項に関する回答内容について	53
資料20 「新しい工業高校の再編に係る校舎等整備比較資料」	別添

資料 |

(委員会の実施状況)

「新しい工業高校の整備候補地選定委員会」設置要綱

(趣旨及び設置)

第1条 京都市立洛陽工業高校及び伏見工業高校を統合・再編し、新しい工業高校を設置するにあたり、その整備候補地について検討する「新しい工業高校の整備候補地選定委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の事項について協議するものとする。

- (1) 新しい工業高校の設置に適した整備地候補の選定
- (2) その他教育長が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が委嘱または任命する。

- (1) 京都市立洛陽工業高校及び伏見工業高校同窓会関係者
- (2) 学識経験者
- (3) 産業界関係者
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) その他教育長が必要と認める者

3 委員会に座長を置く。

4 座長は、委員以外の意見を聴取する必要があると判断した場合、委員会にその者の出席を求め意見を聞くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から委員会の終了までとする。

(座長)

第5条 座長は委員の互選により選出する。

2 座長は委員会を総理する。

3 座長に事故があるときは、委員のうちから座長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

(会議の公開)

第6条 会議は、原則公開とする。ただし、座長が他の委員と協議のうえ、必要と認める場合、これを公開しないことができる。

2 会議の傍聴に關し必要な事項は、教育長が別に定める。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、京都市教育委員会事務局指導部学校指導課に置く。

(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に關し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この要綱は平成25年5月24日から施行する。

京都市立工業高校の再編に関する基本方針

(平成 25 年 4 月 策定)

平成 24 年 12 月に提出された「京都市立工業高校将来構想委員会」の「最終まとめ」においては、「将来にわたる学校規模の確保」及び「行政資源の効率的・効果的な活用による施設設備の充実」という観点から、市立工業高校の再編が提言されている。こうした提言を踏まえ、下記の方針のもと、京都市立洛陽工業高校及び伏見工業高校を統合し、「新しい工業高校」として再編する。

記

1 再編により創設する「新しい工業高校」の基本コンセプト

- (1) 工業に関する専門的・先端的な知識と技術の定着を図り、高校卒業後に「ものづくり」の現場を支え、広い視野での「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与する人材の育成を主として目指すとともに、大学等に進学する者にあっては、加速度的に変化・発展する「ものづくり」を担う人材としての素地を培う教育活動を展開する。
- (2) その際には、「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクトのまとめ」(平成 22 年 7 月 20 日)において提言された個々の企業で通用する実践力・応用力の礎となる 6 つの資質・能力(①「ものづくり」を通じた豊かな人間教育の実践、②「ものづくり」を通じた勤労観・職業観の醸成、③将来の夢に向かってチャレンジするための将来設計・計画実行能力、④自己の生き方を主体的に選択する能力、⑤環境変化に機敏かつ柔軟に対応できる課題解決能力、⑥社会貢献への意識啓発)の育成を目指すとともに、取組のさらなる充実を図るため、以下の 4 点を具体的に検討する。

ア 科学・技術・工学・数学の一体的な「ものづくり」を目指す STEM 教育を踏まえた新たなコースの設置

イ 優れた技術力を有する産業界、知の集積拠点である大学等、京都ならではの教育力の積極的な活用

ウ 環境やエネルギー、防災・減災など喫緊の社会的課題の解決を含め、「持続可能な社会」の実現に向け果たしていく「技術」の役割と、「技術」が「社会」の発展を支え、人類の幸福に貢献することを学ぶ取組の充実

エ 京都やわが国はもとより、世界の文化や伝統、生活など社会の多様性を学ぶ取組の充実

2 施設・設備

魅力的な「ものづくり」教育を推進し、世代を越えた「ものづくり教育の場」としての役割を果たすため、基本的な技術・技能の修得はもとより、新たな技術革新にも機敏に対応して教育実践を進めることができる施設・設備を整備する。

3 整備候補地

「新しい工業高校」の整備候補地については、次の観点を考慮し、学識経験者等により構成する委員会を設置し、検討を進める。

- (1) 洛陽工業高校及び伏見工業高校の現敷地について、敷地面積の広狭、交通の利便性、埋蔵文化財の包蔵状況、所要経費等を比較・検討する。
- (2) 洛陽工業高校及び伏見工業高校の現敷地での整備については、大規模な工事に伴う長期にわたる教育活動への影響及び仮設校舎設置に伴うグラウンド利用制限等が見込まれるため、本市が利活用に関する照会を受けている立命館中学・高等学校（京都市伏見区深草西出山町）について、地理的条件や施設状況、教育環境、工業高校として求められる実習室への改修の適否等を調査のうえ、候補地としての活用の可否を検討する。

「京都市立工業高校将来構想委員会」の「最終まとめ」について【概要版】

(平成24年12月 策定)

はじめに

- 京都市立工業高校将来構想委員会（以下、「本委員会」という。）は、京都市立洛陽工業高校及び伏見工業高校（以下、「市立工業高校」という。）における改革をさらに具体化した形で推進していくため、京都市教育委員会から以下について諮詢を受け、多角的な観点から議論を積み重ねてきた。
 - (1) 「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト」（以下、「前回プロジェクト」という。）の「まとめ」（平成22年7月20日策定）で示された方向性を具体化するための方策
 - (2) 上記の方策や生徒・保護者・産業界等のニーズを見据えた今後の学校規模と施設整備のあり方
- このたび、市民意見募集では多数の貴重なご意見を頂戴し、それらのご意見を参考に、本委員会で改めて議論を深め、「最終まとめ」として策定した。

第1章 市立工業高校に対する基本認識

- 市立工業高校は、明治、大正期以来、市民や産業界とともに「ものづくり都市・京都」、さらには「科学技術創造立国・日本」を支える有為な人材を輩出。また、最近では、両校の「ものづくり」を通じた人間教育の実践について、産業界からも厚い信頼を得て、学校あっせんによる就職内定率は、この10年間を通じて100%を達成している。
- しかしながら、産業社会の状況が激変する中、従来の「ものづくり」の概念も「理学」・「工学」・「社会科学」や「プロダクトデザイン」等の領域を包含し、総合性を帯びたものとして変質しつつある。
- この傾向に相応して、市立工業高校においても、将来の「ものづくり」産業を担う技術者を育成するとともに、大学進学をはじめ、より高度な知識・技術を習得し、加速度的に変化する「ものづくり」に対応できる人材の素地づくりが喫緊の課題である。

第2章 次代の「ものづくり」の担い手を育むために

1 市立工業高校で将来を見据え育むべき資質や能力

- 将来を見据えると、「特定の分野に軸を据えつつ、異分野との融合を図り、新たな価値を創造する人材」や「中小企業でも海外市場への進出を加速しており、グローバル化に対応できる人材」などが育成すべき人材像であるとの指摘がある。
- この状況を鑑み、「前回プロジェクト」の「まとめ」で示された資質・能力の育成を目指すとともに、以下の4点を新たな視点として提言したい。

- (1) 普通教科・科目の基礎学力の定着 (2) 科学・技術・工学・数学の一体的教育「STEM教育」の趣旨に基づく取組
- (3) グローバル人材の育成に向けた取組 (4) 「学び」と「社会」とを繋げる教育活動の更なる充実

2 ものづくりへの意欲・興味関心の高い生徒の確保

- 市立工業高校の卒業生に対しては高い評価があり、工業高校の就職実績が中学生の進路選択で魅力的な要素となる一方、生徒や保護者の意識と工業教育の実態との間で著しい乖離が生じているとの指摘もある。こうした課題に対して、本委員会は以下の2点を提言したい。
 - (1) 大学や民間等の理科教室やロボット教室等との連携を図り、「ものづくり」に興味・関心のある小・中学生への働きかけをさらに充実していく。
 - (2) 「ものづくり」の概念が多様化する中、女性ならではの感性も大切であり、女子学生の工業高校に対する興味・関心を向上する取組を一層強化する。
- また、昼間定時制については、「働くことを通じて学ぶ」という趣旨のもと設置されたが、目的意識が乏しい生徒が多く入学する実態がある。こうした状況のもと、京都府教育委員会が平成27年4月開校を表明している「京都フレックス学園構想」の趣旨は昼間定時制と重複する部分が多い中、そのあり方を見直すべきである。

3 産学連携・高大連携による教職員のスキルアップ

次代の「ものづくり」の担い手を育成すべき教職員は、人間性や社会性を備えた生徒を育てるとともに、常に最新の知識や技術などを吸収し、教育活動に反映すべきである。教職員は企業や大学との連携を通して、スキルアップを継続的に図っていくことが重要であり、企業や大学の人材を登用するなど、校内の活性化も検討すべきである。

第3章 今後の「ものづくり」を見据えた市立工業高校のあり方

1 市立工業高校が将来的に担うべき機能

新たな価値の創造による技術革新等に向け、産学公の連携のもと、社会全体で「ものづくり」人材の育成を支えるイノベーションシステムを構築していく必要がある。そこで、市立工業高校が、世代を超えた「ものづくり」人材育成の橋渡しとしての機能を発揮することを期待し、以下の2点を提言したい。

- (1) 産学公の効果的な連携による『ものづくり教育の場』としての役割
- (2) 「ものづくり」の『生涯学習の場』としての役割

2 大学進学希望者のニーズへの呼応

生徒のキャリア形成を見据え、大学等へ進学したいとの願いを実現することも市立工業高校の重要な役割である。しかし、工業科は学習指導要領の定めにより、普通教科・科目の授業時間数が少なくならざるを得ない制約がある。今後は、市立高校全体で「ものづくり」を担う人材を育成する観点から、生徒のニーズに対応できる学校のあり方も検討すべきである。

3 特色ある取組や部活動の推進 ~「市立工業高校スピリット」の継承~

市立工業高校生は、各種大会で優秀な成績を収めるとともに、部活動での活躍も報じられている。こうした活躍は、先輩達の技術の集積と常に高みを目指す熱意などが受け継がれてきた歴史と伝統の賜物であり、次章で述べる再編にあたっては、「市立工業高校スピリット」を継承・発展すべきである。

第4章 市立工業高校の施設・設備の整備と学校規模

1 施設・設備のあり方

基本的な技術・技能はもとより、産業界における新たな技術革新に対応可能な施設・設備を整備し、魅力的な「ものづくり」教育を推進していくことが必要であり、以下の5点の具体的方策を提言したい。

- (1) 「ものづくり」教育に求められる多様な教育的機能を果たせるもの
- (2) 総合的な「ものづくり」に資する自由度の高い空間を有するもの
- (3) 研究開発が可能な「ラボ」や試作・製作が可能な「工房」を有するもの
- (4) 「ものづくり」を媒介として地域とつながるもの
- (5) 公共建築物として求められるニーズに応えるもの

2 市立工業高校の学校規模

- 市立工業高校においては、生徒数や志願者数を踏まえ、学校規模が縮小されてきている。必ずしも現状の生徒数で教育活動に大きな支障が生じていないが、多様な学習活動や部活動等の活性化を図る観点から、1学年6学級(240名)から8学級(320名)の学校規模が妥当と考える。
- なお、今後、京都市地区の中学生数の減少を考慮すれば、両校の学校規模が拡大することは考えにくく、教育活動に大きな支障が生じることも危惧される。このため、2校を再編することにより、学校規模を将来的にも確保することを検討すべきである。

3 施設・設備の整備手法

- 中長期的な視点に立脚し、コスト面を含めた総合的な判断により、施設・設備の充実を図ることが必要である。さらに、将来の学校規模のあり方を考慮すると、市立工業高校を2校維持するのではなく、施策の選択と集中の観点からも、敷地面積や立地条件、交通の利便性等を考慮して2校の優れた部分を集約・融合した再編を行い、限られた行政資源を効率的・効果的に活用することを検討すべきである。
- その場合であっても以下の2点の方策も検討し市民への説明責任を果たせる施設・設備の整備手法とする。
 - (1) 施設整備工事に関する費用等の初期投資や改修等の維持管理など、コスト全体について、可能な限り財政負担を低減させる多様な整備手法を検討する。
 - (2) 設備整備にあたっては変化の激しい「ものづくり」に対応するために、最新の機能を有するものへ「更新」する必要性が生じることを念頭に置き、企業や研究機関が有する設備を活用することも検討する。

おわりに

- 市立工業高校には、今後も「ものづくり」を通じ、社会の発展に寄与する「豊かな人間性」を身に付けた人材育成を図るという重要な責務が与えられていることを再確認し、「全ては生徒の未来のために」との言葉を胸に、生徒をはじめとする市民の大きな期待に応えていただきたい。
- そのためには、以下の3点を踏まえ、新しい工業高校はもとより、市立高校総体で国際的に通用する「ものづくり」人材の育成を、今後推進すべきであることを提言する。

- (1) 優れた技術力を有する産業界、知の集積拠点である大学、伝統的な文化芸術及び地域社会による教育力など、京都がもつ強みを生かす。
- (2) 工業教育、工業高校の役割という視点に止まることなく、人間形成や今後の高校教育のあるべき姿も含めて広い視野に立脚する。
- (3) 生徒の多様なニーズ・興味関心に応え、「学び」への意欲を高め、主体的な「学び」を促す。

新しい工業高校の整備候補地選定委員会 委員名簿

◎：座 長

氏 名	役 職 等
岡野 哲也	都市計画局公共建築部長
尾河 清二	洛陽京工会副会頭
信部 尚平	京都市立伏見工業高校同窓会会长
名高 新悟	京都機械金属中小企業青年連絡会元代表幹事
福本 早苗	武庫川女子大学生活環境学部建築学科教授
前野 芳子	前野公認会計士事務所所長
◎松重 和美	四国大学学長・京都大学名誉教授
村上 英明	京都市立高等学校長会会长
室 保次	京都市立中学校長会進路指導部会長

(敬称略、五十音順)

新しい工業高校の整備候補地選定委員会
審議経過

	開催日	開催場所	内容
第1回	平成25年5月24日	伏見工業高校	・京都市立工業高校の再編に関する基本方針、整備候補地に係る施設状況等の説明
第2回 (視察)	平成25年7月6日	立命館中学・高校	・整備候補地の一つである立命館中学・高校の視察
第3回	平成25年9月24日	洛陽工業高校	・3候補地における諸条件等の比較検討
第4回	平成25年11月6日	伏見工業高校	・立命館中学・高校周辺の土地状況、同校の取得見込み額（非公開）の説明 ・3候補地における諸条件等の比較検討
第5回	平成25年11月29日	京都市総合教育センター	・「最終まとめ（案）」の策定

資料 II

(委員会配布資料)

資料 1

洛陽工業高校・伏見工業高校 設置学科及び生徒募集定員（平成 25 年度入学者選抜）

	全日制	定時制(昼間)	定時制(夜間・単位制)	計
洛陽工業	創造技術科 150		電気科・機械科・コンピュータ科 ※平成22年度末に閉制	150 名
伏見工業	システム工学科 170	システム工学科 (キャリア実践コース) 20	工業技術科 30	220 名
計	320 名	20 名	30 名	370 名

両校とも、1年時は共通履修、2年時からコース選択。コースは、以下の通り。

洛陽工業高校 創造技術科 → 電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコース

伏見工業高校 システム工学科 → 住環境システムコース・都市情報システムコース・
生産技術システムコース・テクノシステムコース・工学探究コース

資料2

洛陽工業高校・伏見工業高校 在籍生徒数(平成25年度)

※ 平成25年4月時点 各校報告数

※ 入学者数と1年生徒数が異なるのは、原級留置生徒や入学後調査までに中退した生徒がいるため。

【洛陽工業】

全日制

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	うち女子
創造技術	150	150	155	184	159	498	22

コース	2年	3年	計	(うち女子)
電気	59	40	99	7
電子	66	62	128	3
機械	35	30	65	3
京都ものづくり	24	27	51	0
計	184	159	343	13

【伏見工業】

全日制

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	うち女子
システム工学	170	170	185	150	147	482	64

コース	2年	3年	計	(うち女子)
住環境システム	31	31	62	10
都市情報システム	35	37	72	10
生産技術システム	26	20	46	4
テクノシステム	37	35	72	13
工学探究	21	24	45	4
計	150	147	297	41

定時制(昼間)

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	(うち女子)
システム工学 (キャリア実践コース)	20	20	21	17	12	50	4

定時制(夜間)

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	4年	計	(うち女子)
工業技術	30	30	39	17	21	25	102	9

資料 3

洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況(平成以降)

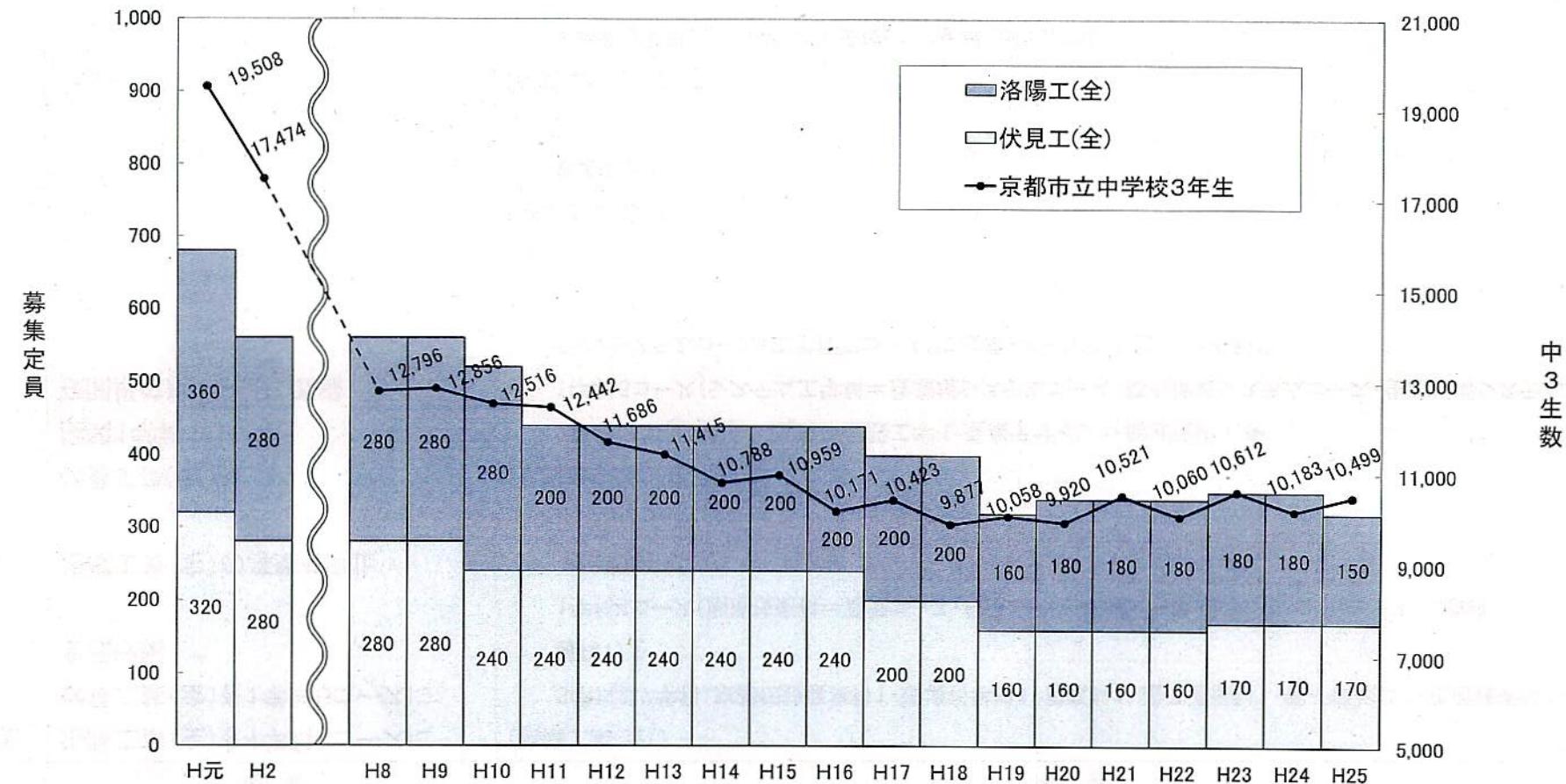
選抜年度	概 要	内 容
平成2年度	洛陽工業(全)「情報電子科」 伏見工業(全)「産業デザイン科」 等の設置	[洛陽工業(全)] 6 学科 9 学級(機械 2・電子 2・電気 2・化学工業 1・色染化学 1・染織技術 1)を 5 学科 7 学級(電子機械 2・情報電子 2・電気 1・化学工業 1・染織技術 1)に改編。 [伏見工業(全)] 7 学科 8 学級(金属工芸 1・精密機械 1・建築 2・土木 1・インテリア 1・工業デザイン 1・窯業 1)を 5 学科 7 学級(機械 2・建築 2・建設工学 1・産業デザイン 1・セラミック 1)に改編。
平成 10 年度	伏見工業(全)「総合技術科」 同校(定)「都市建設科」 洛陽工業(定)「コンピュータ科」 等の設置	[伏見工業(全)] 「セラミック科」を廃止、「機械科」を1学級減し、「総合技術科」を新設し、 5 学科 6 学級(機械 1・建築 2・建設工学 1・産業デザイン 1・総合技術 1)に改編。 [伏見工業(定)] 「土木科」「建築科」を統合して「都市建設科」を置き、 2 学科 4 学級(機械 2・都市建設 2)に改編。 [洛陽工業(定)] 「工業化学科」を廃止、「電気科」を1学級減する一方で、「コンピュータ科」を新設し、 3 学科 4 学級(機械 2・電気 1・コンピュータ 1)に改編。
平成 11 年度	洛陽(全)を3学科群7学科に 全面改編	5 学科 7 学級(電子機械 2・情報電子 2・電気 1・化学工業 1・染織技術 1)を 3 学科群 7 学科(京都伝統産業科 1・環境科学科 1・電気科 1・電子通信科 1・電子情報科 1・生産技術科 1・電子機械科 1)に改編。

洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況

選抜年度	概 要	内 容
平成19年度	<p>洛陽工業(全)を1学科4コースに 伏見工業(全)を1学科5コースに 全面改編</p> <p>洛陽工業(定)の募集を停止</p> <p>伏見工業(定)を 昼間1学科1コースと 夜間単位制1学科に改編</p>	<p>[洛陽工業(全)] 3学科群7学科(京都伝統産業科1・環境科学科1・電気科1・電子通信科1・電子情報科1・生産技術科1・電子機械科1)を 1学科4コース(創造技術科=電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコース)に改編。 一括募集。</p> <p>[伏見工業(全)(昼間定)] 5学科 6学級(機械1・建築2・建設工学1・産業デザイン1・総合技術1)を 1学科5コース(システム工学科=住環境システムコース・都市情報システムコース・生産技術システムコース・テクノシステムコース・工学探究コース)に改編・キャリア実践コースを新設。 一括募集。</p> <p>[洛陽工業(定)] 募集停止。</p> <p>[伏見工業(定)] 定時制夜間部(4年)1学科(工業技術科)を単位制に改編。</p>
平成22年度	洛陽工業(定)を閉制	[洛陽工業(定)] 閉制。

資料4

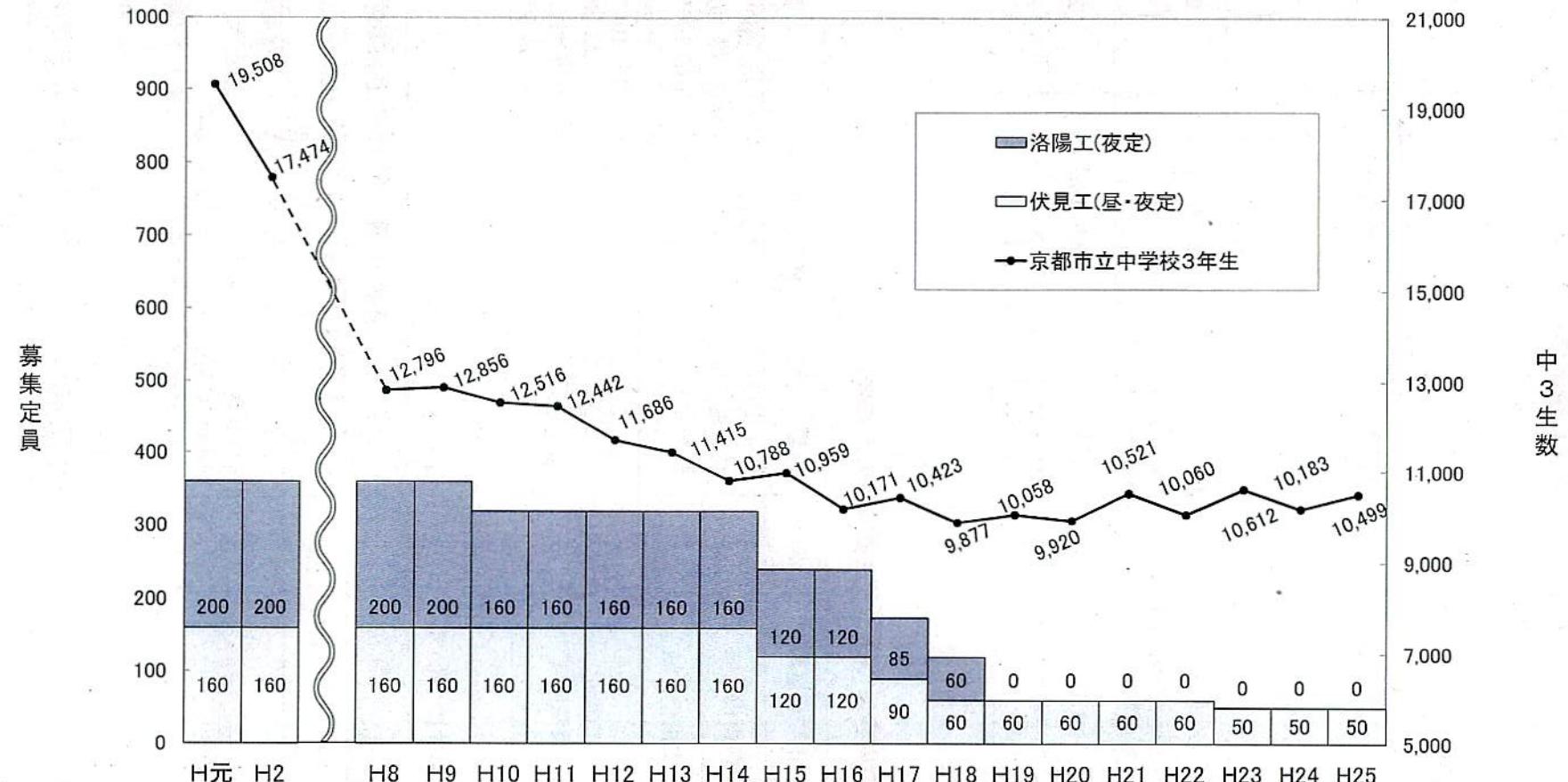
京都市立中学校3年生徒数 及び 洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【全日制】



高校入学年度	H元	H2	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
定員比率 (募集定員／中3生数)	2.9%	3.2%	4.4%	4.4%	4.2%	3.5%	3.8%	3.9%	4.1%	4.0%	4.3%	3.8%	4.0%	3.2%	3.4%	3.2%	3.4%	3.3%	3.4%	3.3%

資料5

京都市立中学校3年生徒数 及び 洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【定時制】



資料 6

「新しい工業高校」整備候補地の現状について

1 基礎数値等について

学校名	生徒数	学級数	敷地面積	建物面積
洛陽工業	529 名	20 学級	32,763 m ² 〔 内、グラウンド 11,599 m ² 〕	22,676 m ² 〔 内、体育館 1,385 m ² 〕
伏見工業	638 名 〔 全日制 539 名 定時制 99 名 〕	22 学級 〔 全日制 18 学級 定時制 4 学級 〕	42,728 m ² 〔 内、グラウンド 18,951 m ² 〕	20,795 m ² 〔 内、体育館 1,339 m ² 〕
【参考】 立命館 中・高	1,701 名 〔 中学校 709 名 高 校 992 名 〕	51 学級 〔 中学校 24 学級 高 校 27 学級 〕	70,051 m ² 〔 内、グラウンド 21,441 m ² 〕	21,612 m ² 〔 内、体育館 1,849 m ² 〕

※平成 24 年 4 月 1 日時点での数値

2 都市計画の内容について（主要項目のみ抜粋）

学校名	市街化区域	用途地域	風致・景観等	埋蔵文化財	備考
洛陽工業	市街化区域	第 1 種 住居地域	市街地型 美観形成地区	唐橋遺跡 西寺跡	・容積率 200% ・建ぺい率 60%
伏見工業	市街化区域	第 1 種 住居地域	町並み型建造 物修景地区	指定なし	・容積率 200% ・建ぺい率 60%
【参考】 立命館 中・高	市街化 調整区域	指定なし	第 2 種風致地区 (風致地区特 別修景地域)	指定なし	・容積率 100% ・建ぺい率 30% (風致地区に よる規制) ・宅地造成工事規制区域

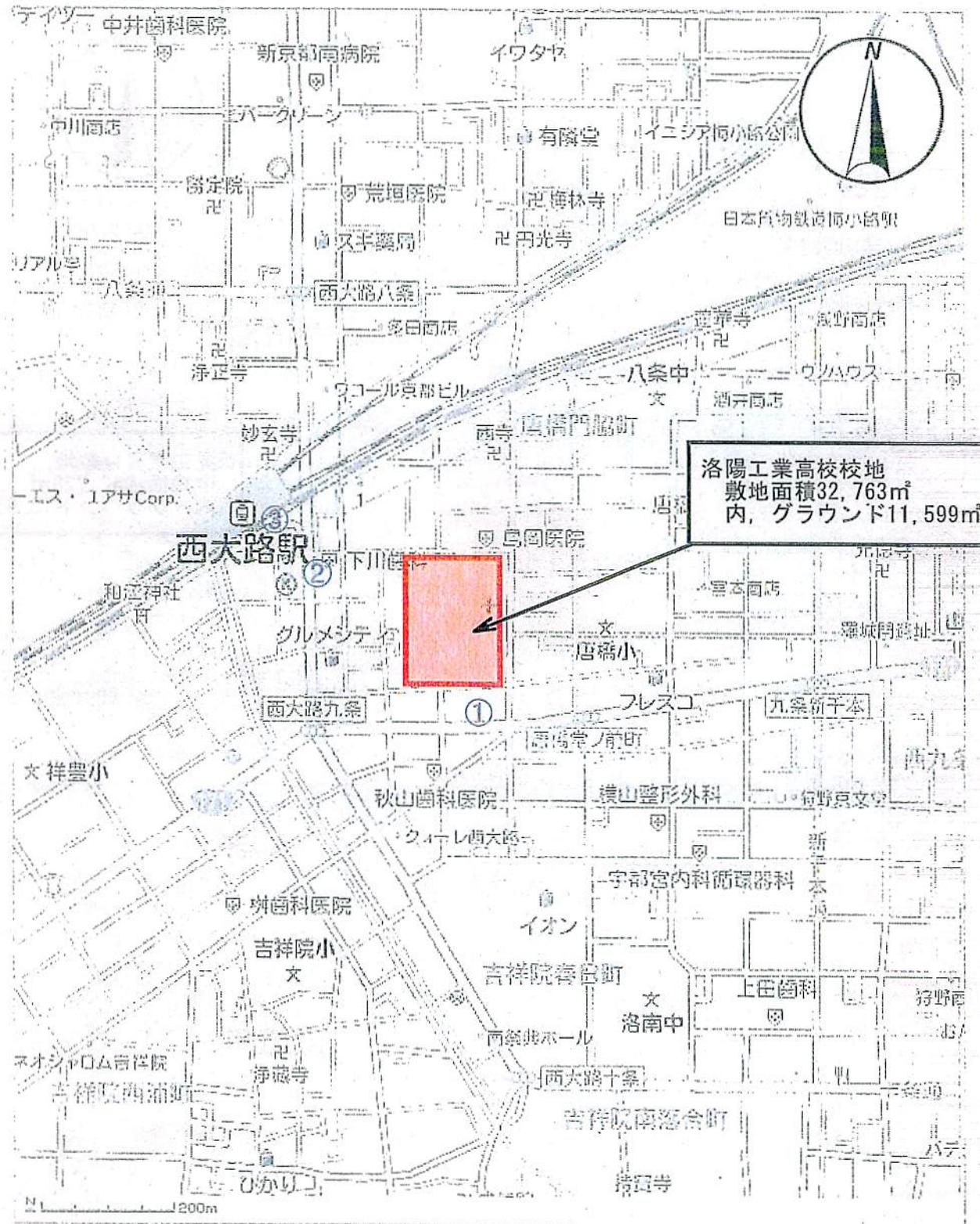
3 交通の利便性について

学校名	所在地	最寄りの駅・停留所及び所要時間
洛陽工業	南区唐橋大宮尻町 22	・市バス 「洛陽工業高校前」・「西大路駅前」から徒歩 5 分程度 ・JR 「西大路駅」から徒歩 5 分程度
伏見工業	伏見区深草鈴塚町 13	・市バス 「勧進橋」・「稻荷大社前」から徒歩 5 分程度 ・市営地下鉄 「十条駅」から徒歩 15 分程度 ・JR 「稻荷駅」から徒歩 12 分程度 ・京阪電気鉄道 「伏見稻荷駅」から徒歩 7 分程度
【参考】 立命館 中・高	伏見区深草西出山町 23	・市バス 「坊町」・「僧坊町」から徒歩 7 分程度 ・JR 「稻荷駅」から徒歩 20 分程度 ・京阪電気鉄道 「深草駅」から徒歩 15 分程度

京都市立洛陽工業高校（京都市南区唐橋大宮尻町22）

■ 最寄りの駅・停留所及び所要時間

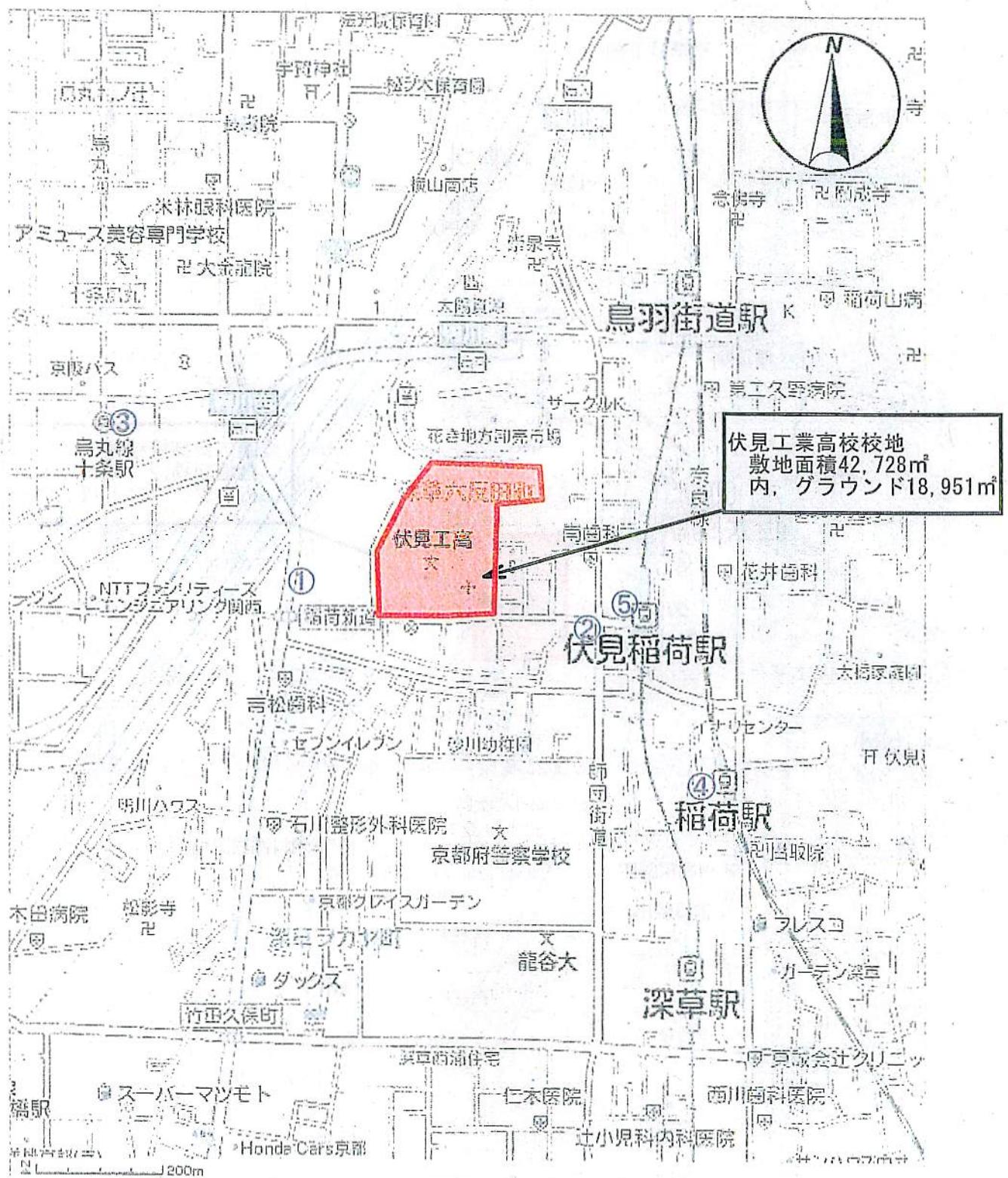
- ①市バス「洛陽工業高校前」：徒歩5分程度
- ②市バス「西大路駅前」：徒歩5分程度
- ③JR「西大路駅」：徒歩5分程度



京都市立伏見工業高校（京都市伏見区深草鈴塚町13）

■ 最寄りの駅・停留所及び所要時間

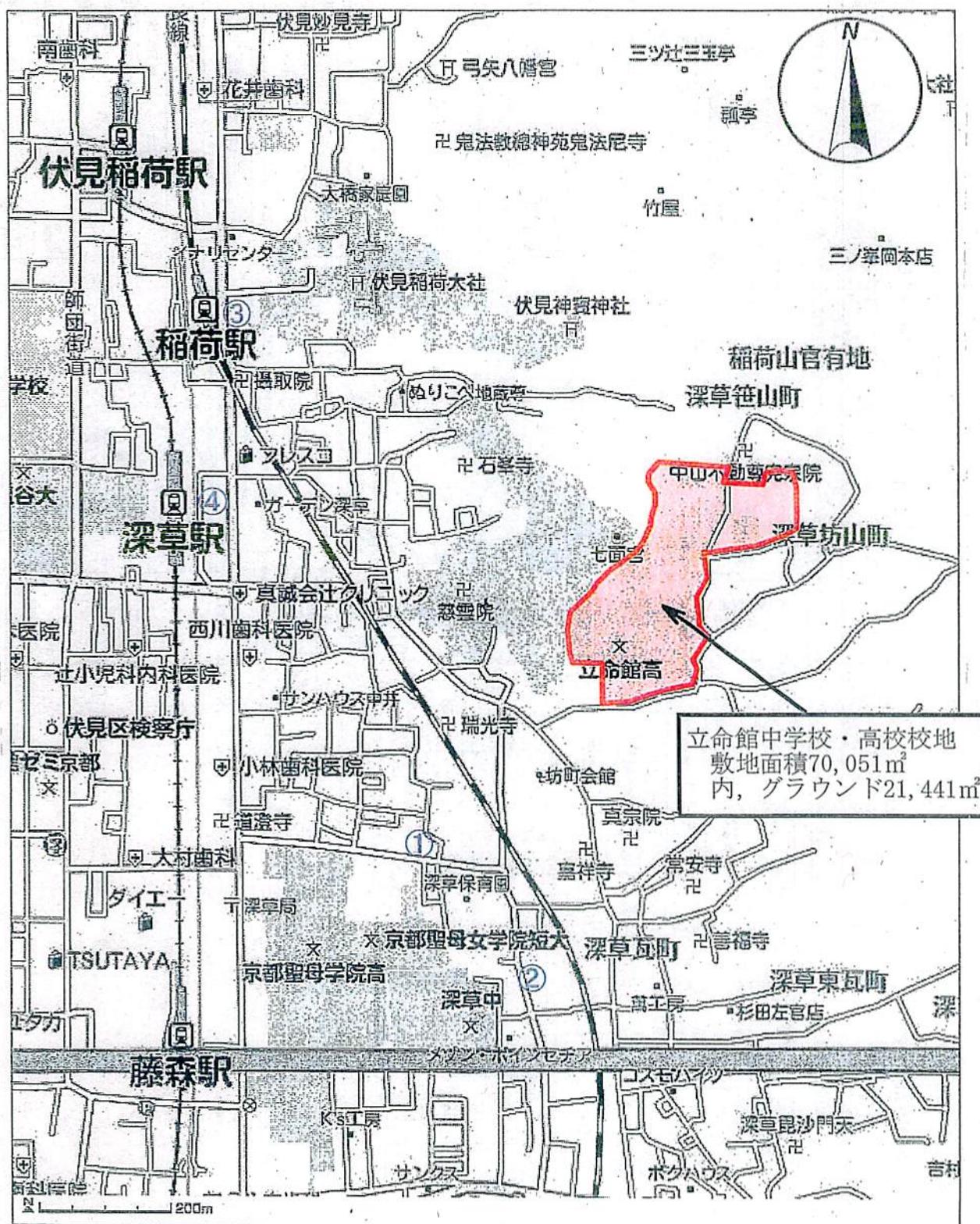
- ①市バス「勧進橋」：徒歩5分程度
 ②市バス「稻荷大社」：徒歩5分程度
 ③市営地下鉄「十条」：徒歩15分程度
 ④JR「稻荷駅」：徒歩12分程度
 ⑤京阪電気鉄道「伏見稲荷駅」：徒歩7分程度



立命館中学校・高等学校（京都市伏見区深草西出山町23）

■ 最寄りの駅・停留所及び所要時間

- ①市バス「坊町」：徒歩7分程度
- ②市バス「僧坊町」：徒歩7分程度
- ③JR「福荷駅」：徒歩20分程度
- ④京阪電気鉄道「深草駅」：徒歩15分程度



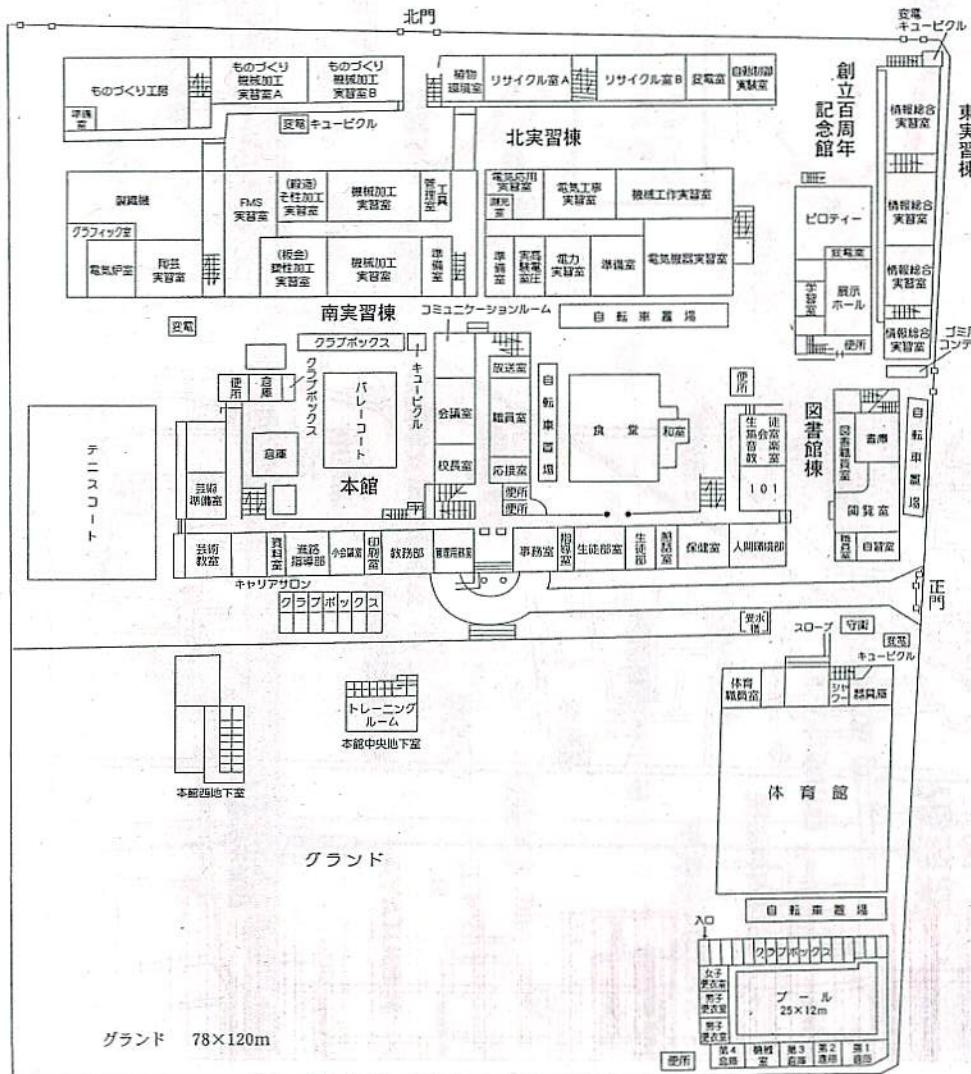
資料7 整備候補地の校舎配置および各階平面図 (1) 洛陽工業高校

校舎配置および各階平面図

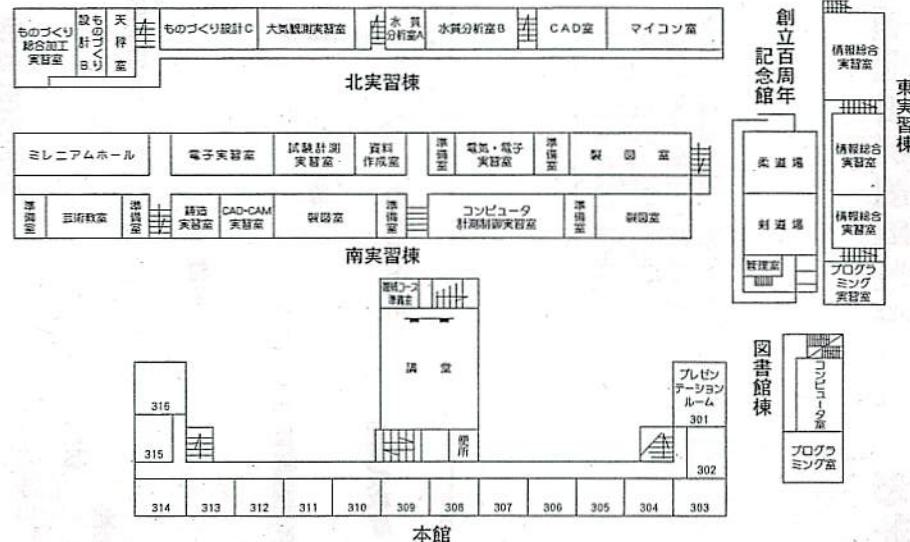
(1) 洛陽工業高校

校舎配置および各階平面図

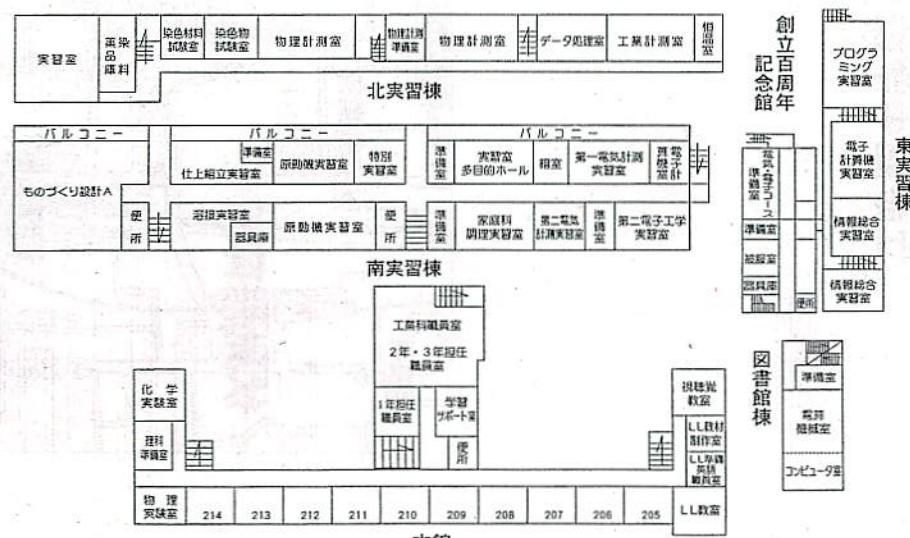
(1階 平面図)



[3階 平面図]

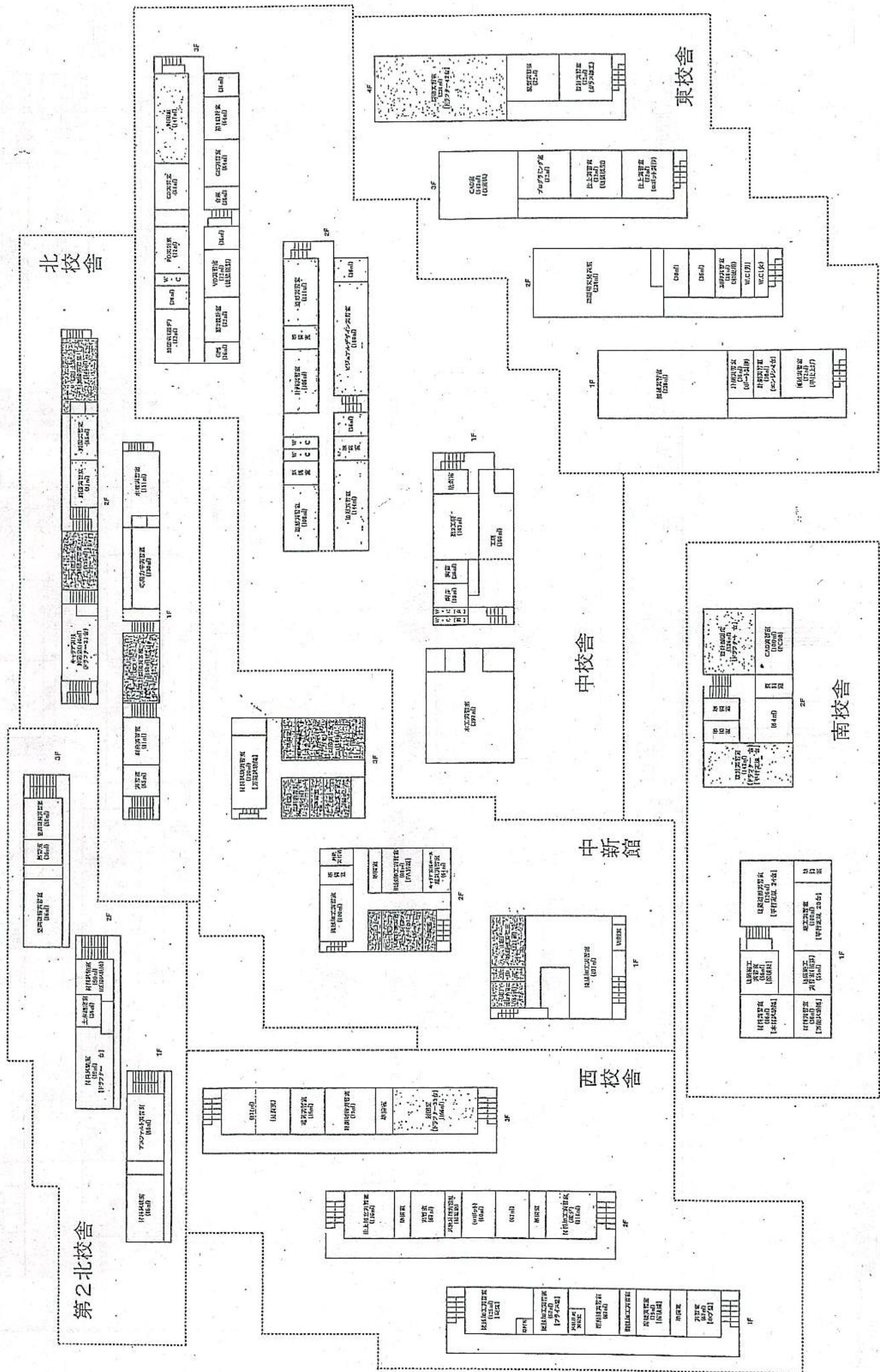


[2階 平面図]

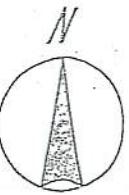


校地面積 32,763 m²

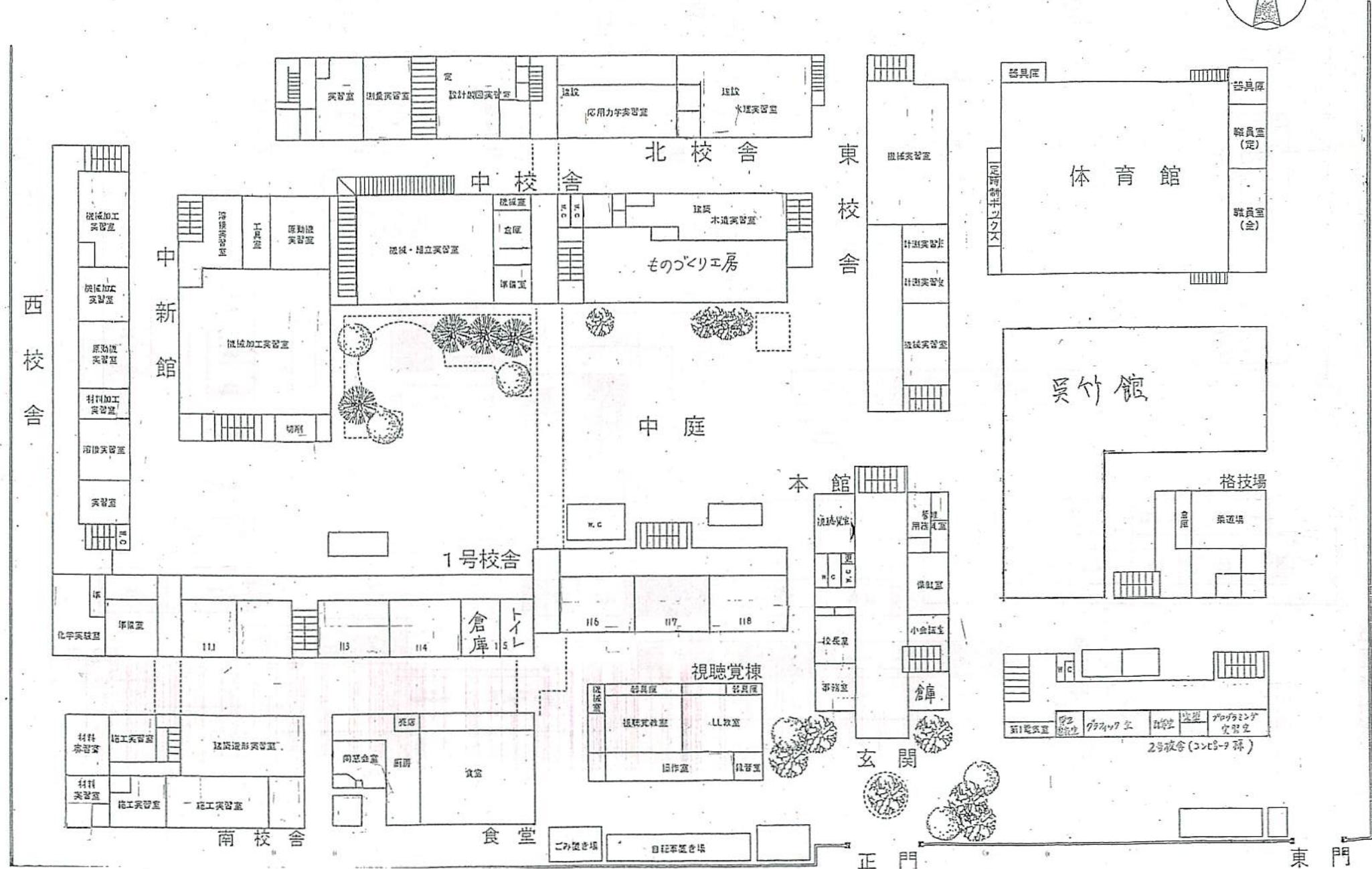
(2) 伏見工業高校



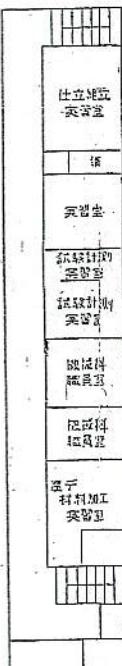
伏見工業高等学校平面図 1F



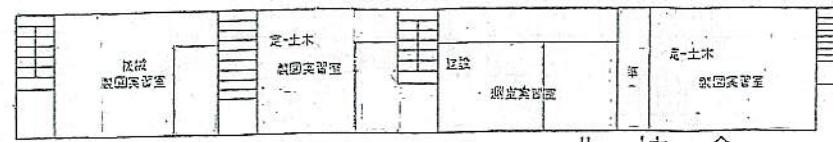
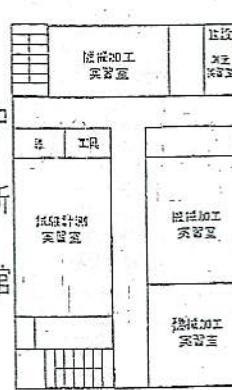
22



伏見工業高等学校平面図 2F

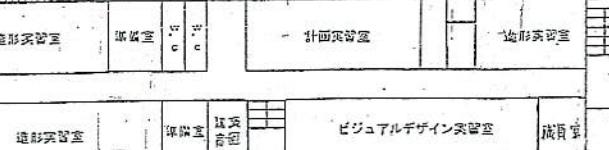


中棟

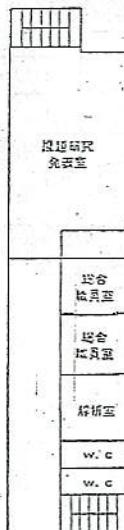


北校舎

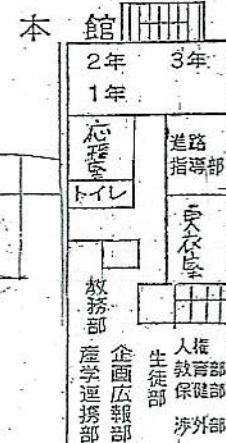
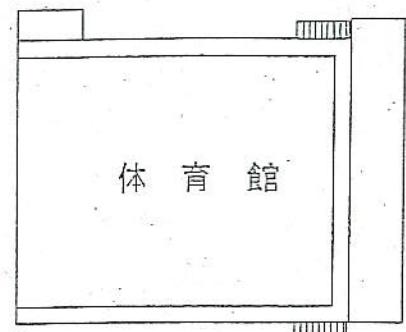
中校舎



東校舎



体育館

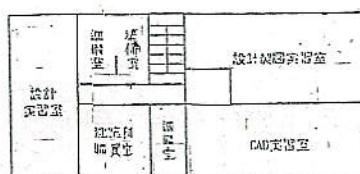


1号校舎

121 122 123 124 125 126 127 128

トイレ

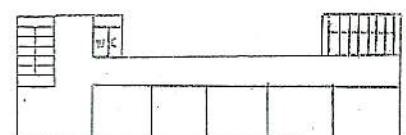
南校舎



第2東校舎

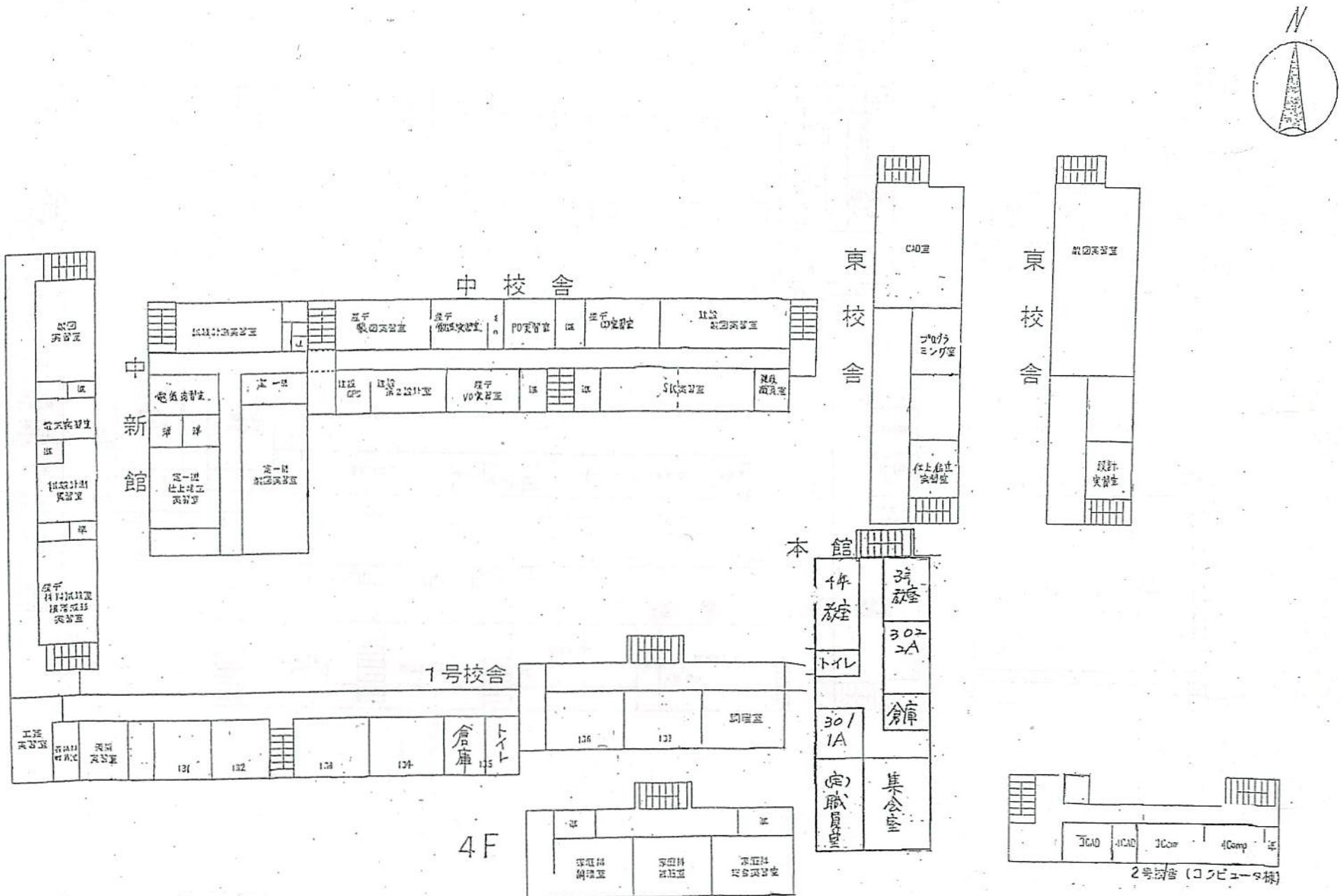


格技場

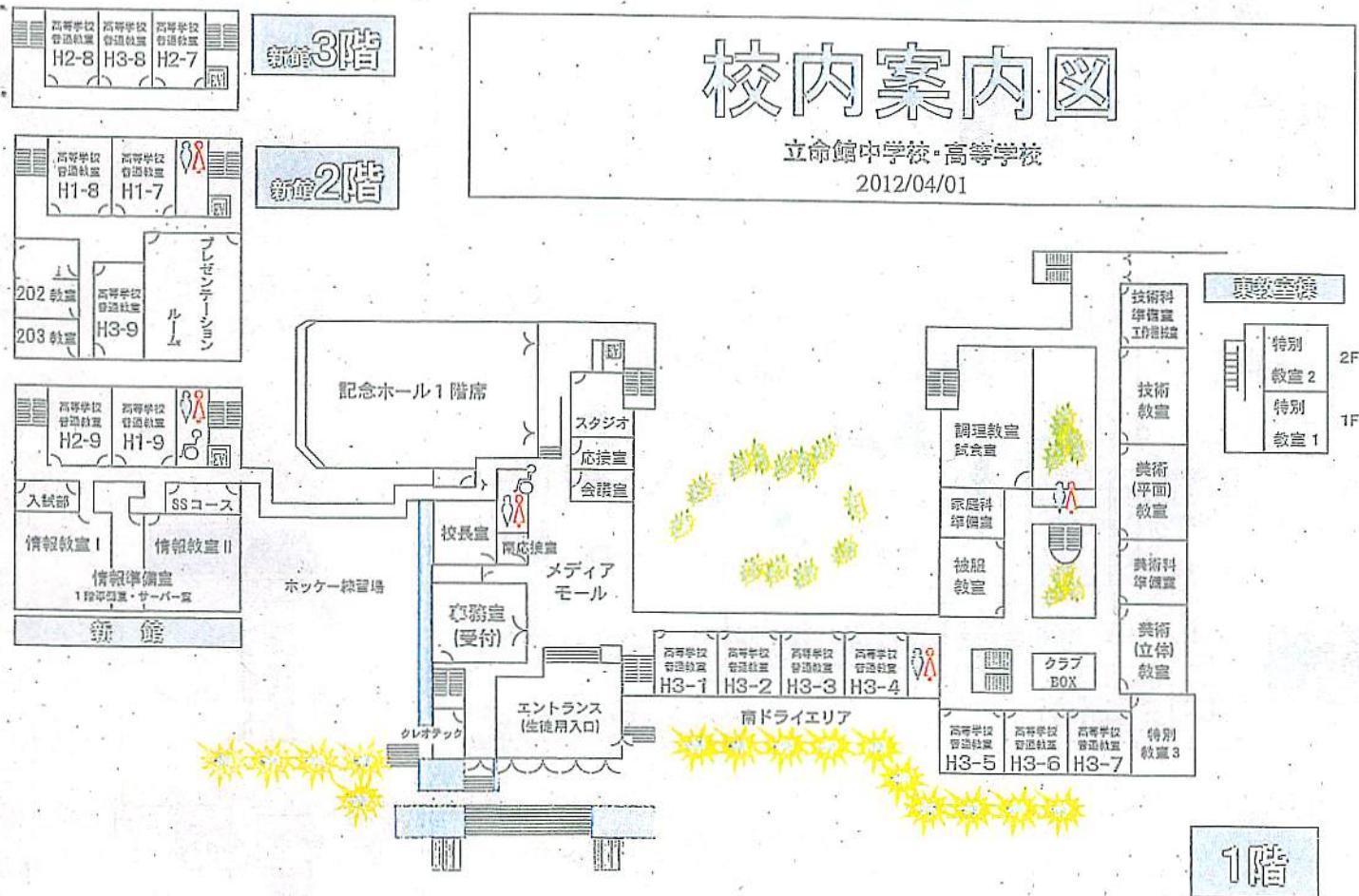


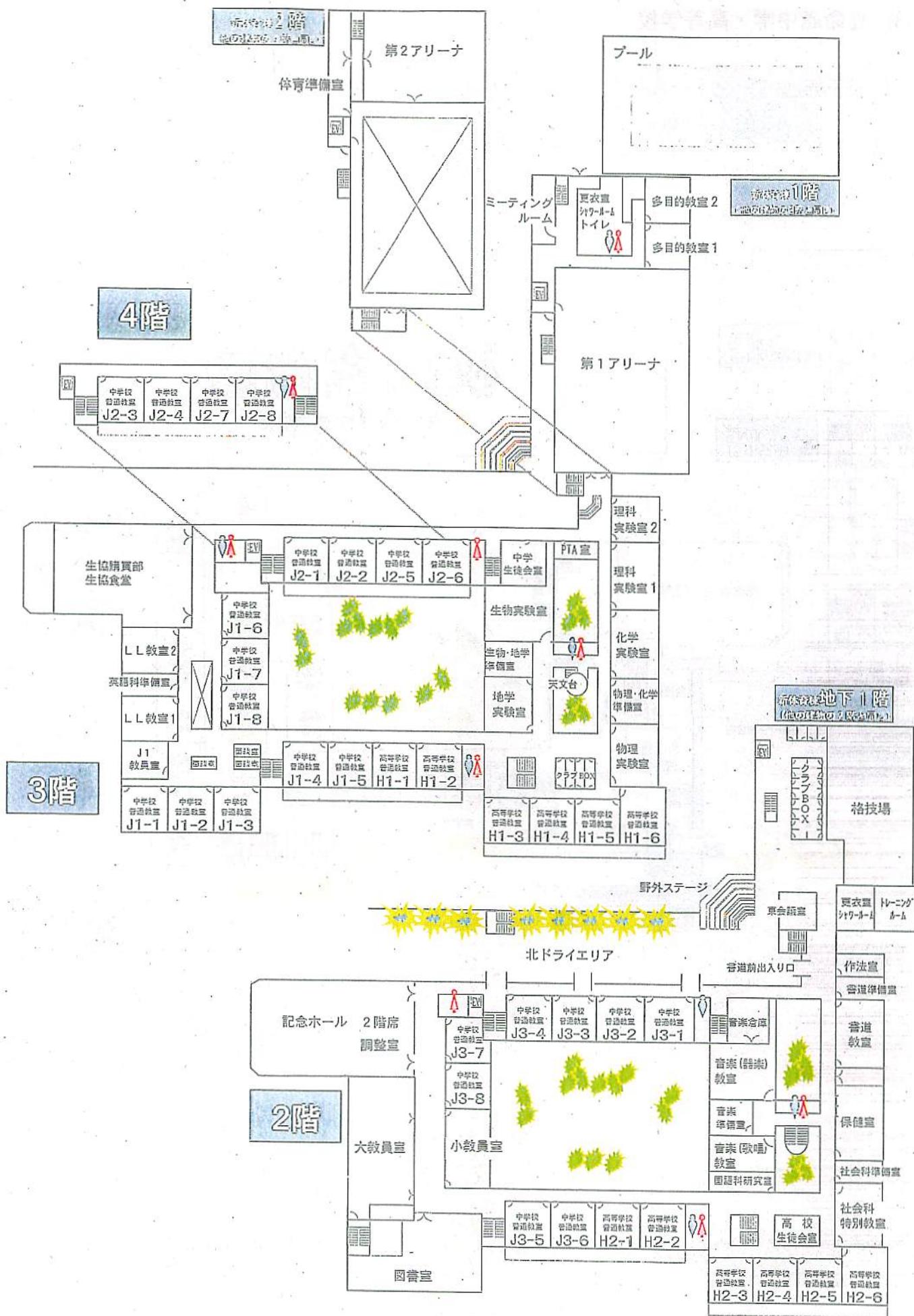
伏見工業高等学校平面図 3F

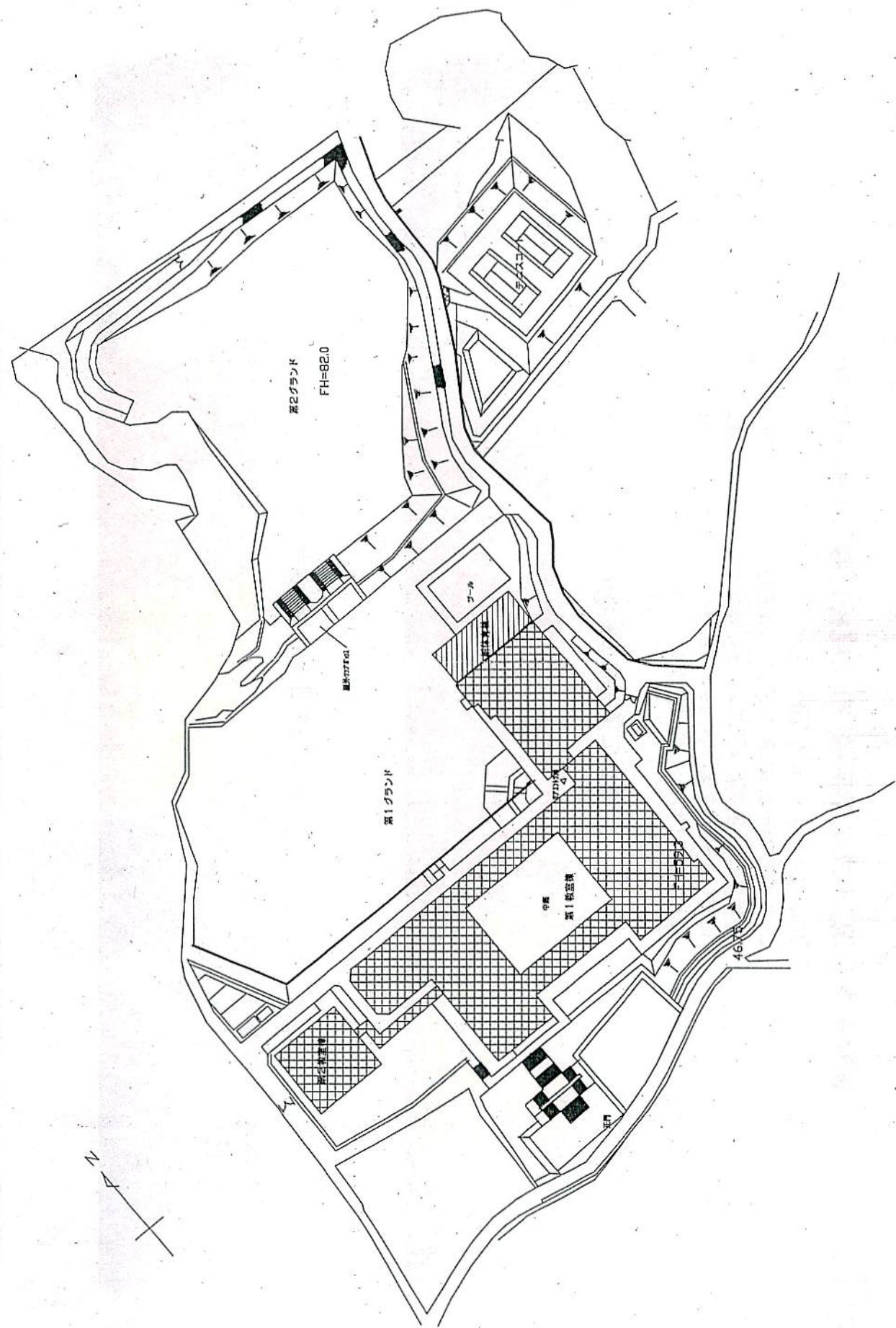
24



(3) 立命館中学・高等学校

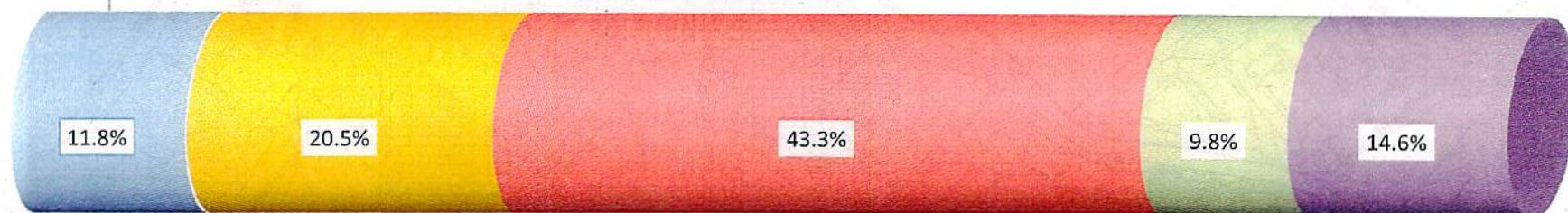
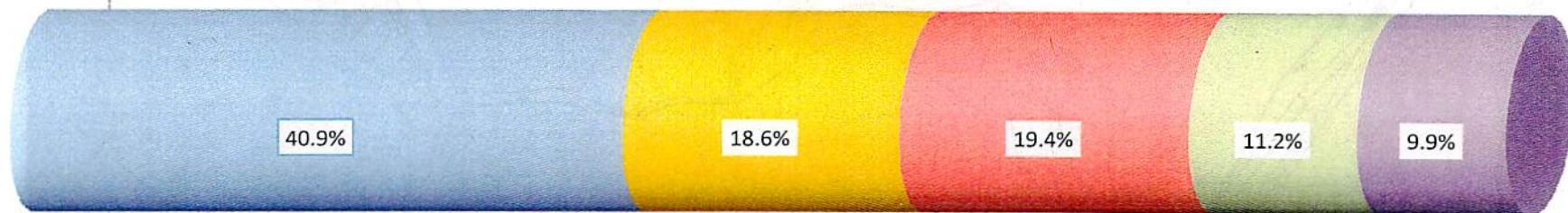






建物保有状況【市立工業高校・市立高校比較】(平成25年5月1日現在)

- 30年未満(昭和58年度以降に竣工)
- 30年以上40年未満(昭和48年度以降昭和57年度以前に竣工)
- 40年以上50年未満(昭和38年度以降昭和47年度以前に竣工)
- 50年以上60年未満(昭和28年度以降昭和37年度以前に竣工)
- 60年以上(昭和27年度以前に竣工)

市立工業高校の建物保有割合市立高校全体の建物保有割合

※ 上記数値については、全施設の延床面積において該当期間に建築された施設の延床面積が占める割合を示したものである。

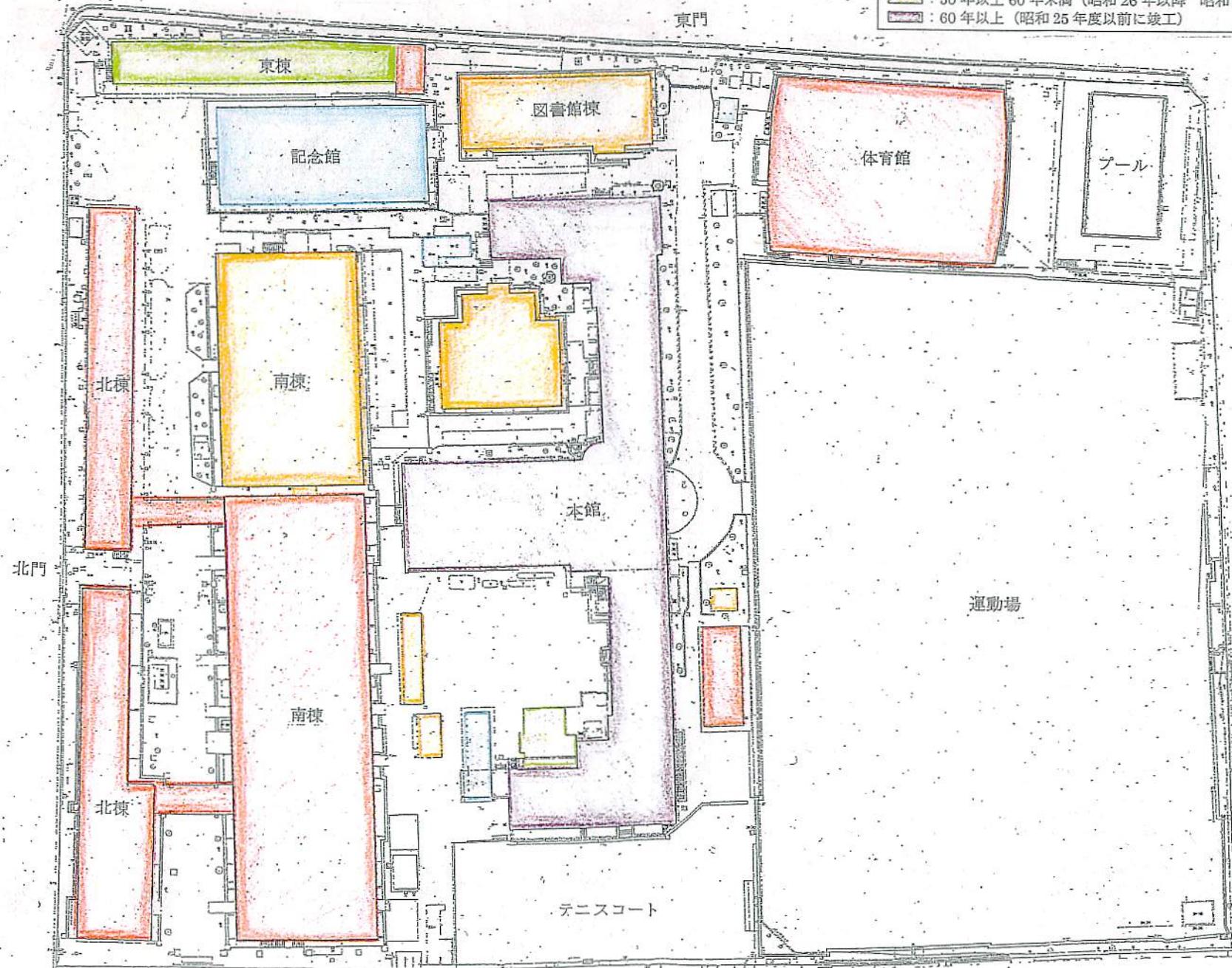
京都市立洛陽工業高校における建物保有状況【現況平面図】(平成 23 年 4 月 1 日現在)

縮尺：不明



【凡例】

- | | | |
|---|---------------------------|----------------|
| ■ | 30 年未満 (昭和 56 年度以降に竣工) | 昭和 55 年度以前に竣工) |
| ■ | 30 年以上 40 年未満 (昭和 46 年以降) | |
| ■ | 40 年以上 50 年未満 (昭和 36 年以降) | 昭和 45 年度以前に竣工) |
| ■ | 50 年以上 60 年未満 (昭和 26 年以降) | 昭和 35 年度以前に竣工) |
| ■ | 60 年以上 (昭和 25 年度以前に竣工) | |



京都市立伏見工業高校における建物保有状況【現況平面図】(平成23年4月1日現在)

縮尺：不明



【凡例】

- : 30年未満(昭和56年度以降に竣工) 昭和55年度以前に竣工)
- : 30年以上40年未満(昭和46年度以降) 昭和45年度以前に竣工)
- : 40年以上50年未満(昭和36年度以降) 昭和35年度以前に竣工)
- : 50年以上60年未満(昭和26年度以降)
- : 60年以上(昭和25年度以前に竣工)

